

ウチョウラン *Orchis graminifolia* (Reichb.f.)Tang et Wang

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的にも愛知県でも園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。根は球状に肥厚する。茎は斜上し、高さ7~20cm。葉は2~3個が互生し、線形~広線形、長さ7~12cm、幅3~8mm、上方はやや湾曲し、先端は鋭尖頭、基部はやや茎を抱いて葉鞘となる。花期は6~8月、花は茎の上部に数個が一方に傾いてつき、紅紫色、苞は狭披針形、長さ7~12mmである。背がく片は卵円形、側がく片と側花弁は斜卵形で、長さ5~6mm、唇弁は深く3深裂して開出し、長さ幅ともに約13mm、中裂片の先端は円頭または微凹頭となる。距は長さ10~15mm、先端は湾曲して前方を向く。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（小林 44945）、設楽東部（山崎玲子 1616）、鳳来北東部（加藤等次 1591）、豊根（加藤等次 s.n., 1968-8-2）で採集された標本もある。

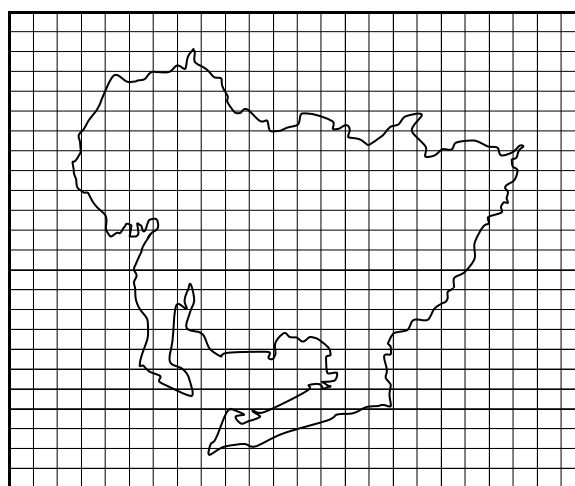
【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の湿った岩壁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

全国的には、山草業者による商業的採取が問題とされることが多い。しかし山草業者による採取は、個体数があるレベル以下にまで減少すれば、採算がとれないため停止される。愛知県の状況は、すでにそのレベルを割り込んでいる。ここまで減少させたという点で商業的採取の責任は大きい。現在僅かに残存している集団に対する最大の脅威は、むしろ好事家の手で絶滅するまで繰り返される、非商業的採取である。

【保全上の留意点】

基本的には国民共有の資産である自然物を個人の庭に取り込んでしまう山草愛好家のモラルが問題であるが、このような道義的な訴えだけでは目前に迫る絶滅を回避できない。当面は秘匿以外に有効な手がなく、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ヒナチドリ *O. chidori* (Makino) Schltr.も愛知県（設楽町段戸山、稲武町舟山）にあると報告されている（大原, 1971）が、確実な標本資料がないため、今回のリストには掲載されていない。

【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.152. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保草本 p.11、平草本 p.200、SOS旧版 p.114、環境庁 p.619.